

Weekly Report

テーマ／『ガバナ補佐 ご講話』

■ 日 時／2009年9月17日(木)7:30~8:30 ■ 場 所／カトリック布池教会内 聖ヨゼフ館 3F



ロータリーの未来は
あなたの手の中に

2009-10年度国際ロータリーテーマ

ロータリーの未来はあなたの手の中に

2009-10年度クラブ運営方針

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」

会 長：野村 尚史
副会長：青木 昭憲
幹 事：加納 伸康
例 会：毎週木曜日
会 場：カトリック布池教会内聖ヨゼフ館
住 所：名古屋市東区葵1-12-23
電 話：052-935-7790

第200回例会（第11回）

例会出席率

今 回 (9/17)		前 回 (9/10)		前々回 (9/3)	
会員数	27名	会員数	27名	会員数	27名
出席数	19名	出席数	12名	出席数	20名
欠席数	8名	補填数	4名	補填数	4名
出席率	70.4%	出席率	59.3%	出席率	88.9%

ゲスト紹介

東名古屋分区ガバナ補佐 村橋 泰志 様
第2760地区地区副幹事 戸田 俊晴 様
東名古屋分区分区幹事 中村 公彦 様

ビジター紹介

おみえになりませんでした。

斉唱

ロータリーソング 『奉仕の理想』

今月のお誕生日

4日 吉村 裕子 さん 16日 高山 宣子 さん
8日 前崎 正太郎 君 18日 阿部 恵彦 君
14日 越野 安彦 さん 30日 堀口 久 君

次回例会案内

- 開催日時／2009年10月1日 7:30~8:30
- 開催場所／聖ヨゼフ館 3F
- テーマ／メンバー卓話：石原 彰久君

ニコボックス報告

年間予算	前回までの累計	本日
648,000円	99,000円	47,000円

(名古屋葵ロータリークラブ)

野村君 本日はガバナ補佐訪問です。よろしくお願ひします。
加納君 本日はよろしくお願ひします。
田中君 本日はよろしくお願ひします。
堀口君 本日はよろしくお願ひします。
越野君 14日で42歳になりました。
石田君 ガバナ補佐訪問ありがとうございます。
石原君 ガバナ補佐訪問ありがとうございます。
山田真君 青木さん、岡田さん、
村上さん先日はお心使いありがとうございました。
藤田君 よろしく。
丹羽君 よろしく。

会長挨拶

野村尚史

皆さんおはようございます。
本日は村橋ガバナー補佐、戸田地区副幹事、中村分区幹事をお迎えしております。
わたくしたちのクラブはまだ設立して5年と若いクラブです。まだまだいたらない点が多いクラブですので、村橋ガバナー補佐よりご指導をいただき、これからのクラブ運営に生かしていければと思っています。村橋ガバナー補佐本日はよろしくお願ひ申し上げます。



幹事報告

加納伸康

ガバナ公式訪問の登録について10月7日(水)アパホテル名古屋web上で出席登録をお願いします。(9/24までにお願ひします)

・地区大会の登録について

地区大会2日目11月8日(日)は当クラブの例会扱いです。

web上で出席登録を済ませてください。(9/24までにお願ひします)

・委員会等web上で登録できるようにしてあります。

メールにて皆様には案内がきますが、

登録は是非ともwebを活用下さい。

9月18日(金) 12:30~13:30 社会奉仕委員会 レストランニオ

9月24日(木) 12:30~13:30 職業奉仕委員会 肉の丸小

会員減少と退会問題を考える



10月7日の大澤ガバナー公式訪問に備えて、東名古屋分区の各クラブをご訪問しています。守山、北、名東、東山、和合、名北、錦に続き8番目です。実際に各クラブをお訪ねし、その雰囲気に触れ、また、会長・幹事・委員長さんたちからお話を伺いますと、いろいろと感ずるところがあります。どのクラブも、それぞれ味わいのある個性的な魅力をお持ちになっているのです。しかしながら、他方では、課題と悩みが共通するところが多いようです。他のクラブでよく聞かれる悩みは、高齢化の問題です。平均年齢をみますと、北の65歳を筆頭に、60歳代が8クラブもあり、50歳代は2クラブしかありません。ところが、葵 R.C は、設立されてまだ4年目、東名古屋分区11クラブのうち一番若く、43.2歳と唯一の40歳代です。従って、その若々しく活発な活躍ぶりを是非とも参考にさせて頂きたいと思えます。ことに、若手を中心となり、フランクな雰囲気、固定概念にとらわれない活動しておられますので、いろいろ教えて頂くことを楽しみにしています。さて、各クラブを訪問して、感銘を受けた点をご報告します。まず、伝統のあるクラブから紹介しますと、北 R.C は分区で最初に設立されたクラブです。90名という会員数を擁し、実に落ち着いていて、かつ和やかな大人の雰囲気を醸し出しています。田嶋ガバナーエレクトに対する心こもったバックアップ態勢や地区委員を多勢輩出されていること、あるいは熱意ある社会奉仕を長年にわたり継続されていることなど、いかにも歴史の厚みのあるクラブです。ロータリークラブの本道を歩んであられるという印象を受けました。次に、守山 R.C は46周年を迎え、分区で3番目に古いクラブです。長年にわたり、守山区に密着した地域との交流が続けられています。クラブの長所は和気藹々とした楽しいところだと自負しておられましたが、実感として納得できました。その次に、和合 R.C ですが、分区内で最も活気のあるクラブだと言ってもよいでしょう。現在の会員数98名ですが「チャレンジ110」と称し、110名の会員とすることを目指しています。活力の源泉は、新睦を旨とし、コーラス部、ゴルフクラブ等、多様な活動を続けておられる点にあるようです。中堅のクラブには、堅実なまとまりのある魅力があります。名東 R.C は、私の所属するクラブですが、分区内の中堅として、30周年行事、地区大会、本年度はIMと3年続きの大きな行事にフーフー言いながらも生真面目に取り組んでいます。ゴルフクラブはもちろんのこと、写真の会、食歩歩きの会、プラチナ会など同好会が活発です。新しいクラブには、風通しのよい明るさがあります。名北 R.C は、45名という少人数ですが、結束の良さでアットホームな雰囲気を特長とし、女性会員が5名と比較的多く、会員相互の交流が盛んです。錦 R.C は33名と少人数ながら多士済々のメンバーが揃い、また女性会員の比率が高く、ソフトな雰囲気と明るさがあり、まとまりのよいクラブでした。小学校の環境教育に取り組むなど、社会奉仕にも熱心でした。東 R.C は、分区では2番目に新しいクラブであり、平均年齢が52.7才という若々しさに好感が持てました。つまり、一口でいえば、どのクラブも個性のある魅力を持っておられますので、その素晴らしさを、大澤ガバナーだけではなく、各クラブの皆様にも、お伝えしたいと思うようになりました。他方、どのクラブも共通の最大の課題として、訴えておられたのは、要するに会員の減少の問題です。退会防止と会員増強の必要性が緊急のテーマのようです。**会員の減少問題が共通の一番大きな課題となっていることに驚きました。**そこで、少し調べてみましたところ、実に深刻な状況にあることを知りました。

・日本全体

1997年の131,731人をピークとして毎年減少し、2009年3月現在では94,906人と、36,825人も減少しています。減少率は28%です。

・第三ゾーン

2004年の29,443人が、2008年には27,170人と、2,273人の減少です。

・第2760地区

2004年の5,480人が2008年には5,165人と、4年で315人の減少です。

・東名古屋分区

2007年7月の663人が2009年7月には623人と2年で40人の減少です。

以上の数字の示すところは、会員の減少は一過性ではないし、特殊事情によるものではなく、日本のロータリークラブ全体が1998年以降、**10年以上にわたり、毎年、継続的に右肩下がり**の失血状態にあるという事実です。重大な要因がなければ、このような現象は起こりません。

その背景には、1990年代の失われた10年と呼ばれる政治と経済の停滞がきっかけとなり、その後のグローバル化による日本経済の体質の変化と高齢化による活力の減退が影響していることでしょう。そして、そのような変化に運動するかのようになり、ロータリークラブ自体が謂わば**制度疲労**を起こして、基本的な魅力を失いつつあるように思われます。従いまして、精神論のみで会員増強を声高に訴えても大きな成果は期待できず、根本的な再生の対策が必要だと思います。この悩みは、我がロータリークラブのみならず、ライオンズクラブや商工会議所にも通底しているようです。愚考しますに、ロータリーの魅力を支える中心の柱は、ステータスシンボルとしてのブランド価値及び会員間の刺激的な触れ合いへの期待という2本の柱であったと考えます。私どもは、現在でもロータリアンであることを誇りに思い、また、社会からも高い評価を受けていると思えます。しかしながら、高度成長的思考の終わり、ロータリークラブの大衆化、経済の停滞と将来への不安などの諸事情から、**ロータリーのステータスシンボルとしての価値と魅力は次第に薄れつつあるのではないのでしょうか。もはや、偉大なるマンネリズムなどおさまっていることはできなくなりました。**ロータリアンの大部分は、中小企業の経営者やいろいろな職業専門家です。戦後の焼け跡から現在の発展を導いたエネルギー源は、「刻苦勉強すれば必ず社会は繁栄し、個人は豊かになる。」という国民の信念でした。ロータリーへ入会することは、努力によって成功したことの自己確認であり、かつ、その社会的承認を意味したと思います。努力する者にとって、ロータリアンになることは目標であり、かつ、誇るべきゴールでもありました。

これをステータスシンボル価値と名付けるならば、今では、その価値観が意義を失いつつあるという危機意識を自覚すべきだと思います。ところが、**葵 R.C は、このようなアゲインストの逆風とは関係なく、新鮮な産声をあげ、また、生々とした活動を展開されているのです。**私は、**ロータリークラブが、再び魅力と活力を発見する秘密がそこから発見できるのではないかと期待しています。**大澤ガバナーは、「**職業奉仕がロータリーの基盤**」であると訴え、形式主義を排するため「**ノーネクタイ運動**」を提唱されております。また、「**事務の合理化と経費の節減・識IT率の向上**」を求めておられます。おそらくは、ガバナーは、ロータリーが重大な危機的状態にあると深刻な認識をされたのではないのでしょうか。そこで、この危機を打破するために、「**ロータリーの原点に帰れ。初心を忘れるな。**」と力説し、ロータリークラブ本来のエネルギーを回復しようとしているように思われます。謂わば原理主義運動です。そして、故佐藤千寿さんは、ロータリアンは、**外に向かつては、起我の精神に基づく職業奉仕活動がその初心であり、内に向かつては、ロータリーが「心のオアシス」でなければならないと指摘**されております。ポール・ハリスが1905年に暗黒社会であったシカゴでロータリークラブを作ったのは、荒野に「**心の友**」と「**心のオアシス**」を求めたからだそうです。だとすれば、大澤ガバナーも、佐藤さんも、そしてポール・ハリスも、表現こそ違っても意味するところは同じであると思えます。「**心のオアシス**」の**再建こそロータリークラブの原点であり、職業奉仕こそロータリアンの初心であるということ**を今こそ思い起こす必要があるかと考えます。もっと平たく言えば、「**心のオアシス**」とは、「**1週間に一度は必ず顔を出したくなるクラブ**」であり、「**1週間に一度は話をしたくなるメンバーが集まっているクラブ**」になることだろうと理解しています。「**楽しく、元気で、タメになるクラブ**」になるにはどうしたらよいか、また同じことですが、それぞれのクラブが「**魅力にあふれたオンリーワンのクラブ**」になるにはどうすべきか、今成長期にある葵 R.C のみなさまといろいろ意見交換ができることを期待しています。

以上